

氏名	氏 家 浩 三
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3633 号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Kinetics of Expression of Connective Tissue Growth Factor Gene during Liver Regeneration after Partial Hepatectomy and D-Galactosamine-Induced Liver Injury in Rats (ラットにおける部分肝切除後やD-ガラクトサミン肝傷害後の肝臓再生におけるconnective tissue growth factor遺伝子の発現動態)
論文審査委員	教授 二宮 善文 教授 田中 紀章 教授 許 南浩

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Connective tissue growth factor (CTGF)が創傷治癒の過程で増加する。本研究はラットにおける部分肝切除後や D-ガラクトサミン傷害後の肝再生における CTGF 遺伝子の発現を調べた。部分肝切除後、CTGF は6時間で増加し、その後コントロールレベルに戻った。培養肝星細胞の CTGF 遺伝子発現と in situ hybridizationによる類洞に沿った CTGF 遺伝子発現が肝星細胞であることを示唆する。D-ガラクトサミン投与後に、CTGF は 2-96 時間において増加した。6-12 時間に一過性の増加があり 24 時間にピークがある。肝再生の immediate-early 応答時期、CTGF 遺伝因子の発現は G1-S 発展に必要とされる細胞外マトリックス産生の制御に必要とされることを示唆する。ガラクトサミン再生のポスト S 期は、壊死炎症後の強い TGF- β 1 発現が長期の CTGF 発現を起こしている可能性を示唆した。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は創傷治癒過程で変動することが分かっている Connective Tissue Growth Factor (CTGF)遺伝子について、ラットにおける部分肝切除とD-ガラクトサミン傷害後の肝再生過程においてその発現変動を解析したものである。CTGF発現の時間的経過や発現様式、他の遺伝子発現との関連において重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。